



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演

眞庭念流達人櫻井五助

妙見堂前の斬合

秋山要介は支度が出来て

勘定を下げて早々出雲屋を

飛出した前は鉢澤から東

海道岩淵に落ちる富士川の

急流直に船に乗つて向ふ

に越したわざと恁う云ふ

道を取つて東海道を指して

下ります

林「先生どうして急にお立

になりました」

要『これが計略だ貴様も

知つての通り高萩の身内や

又猪之松の兄弟分が我々の

出立を待つて怨みを晴らさ

うと兩三日前から出雲屋の

近所へ見張を出して居る、

斯くと知つてことさらに醉

ふたふれ今日も逗留明日も

逗留と日を延ばし彼等の用

意を冗として今日は雨では

あり必ず出立いたすまいと

彼等が引取つたと見て雨が

歎つたを幸急に出立した

林「ア、左様でござります

か、そんな事とは些とも氣

が附きません」

要『さあ急げ／＼』

道を急いで其夜の四ツ時

かゝつて來た此處は天神

ケ嶽難所でござりますス

ツと云ふ人聲が後に聞えた

秋山が麓の方を見る

と松火

を立てたやうな岩、その下

介は腰の一刀をスラリと引

と登つて來る、近寄るを引

と松火を投げ出し我先に

は谷でございます、秋山要

と登つてしまへ

在庫品豊富と!!!

弊店のモットー!!!

品質の正確と!!!

値段の破格と!!!

懸命の奉仕は!!!

受けた秋山が斬つてする

要『林藏歩も退くな、も

う懲うなつた上は死人の山

を築くか、但し此處で佛に

なるか二ツに一ツ確り働け

廻つた、忽ち十二三人バタ

さア來イ』

と待ち受けた所へ松火を

點じてワツとときを揚なが

ら押して來た廣澤の兵右

衛門、鉢澤の藤兵衛、二神興

村の三右衛門始め凡そ五六

十人二日許り續いて空を踏

んで其揚句に不意に立たれ

たので散つてゐた子分が十

分集まらない然し逃がし

てはならんと追駆けてドン

／＼登つて來たが此處は道

要『林藏追手がかゝつた

場が悪い今少し登れ』

時

○『相手は五人だ恐れる所

は無え俺の働きを見ろ』

と云ひながら手槍を持つ

て崩れ立つ中より躍り出し

たは林藏の爲に横死した猪

之松の子分白川無宿の奴の

平右衛門狭い道を駆け登り

ヤツと云ふと秋山を望んで

突いて來た要介ヒラリと

身を交し平右衛門がトント

ンと前へ出た所をサツと横

に拂つた胸を斬られて一

人の平右衛門が二人となり

胸から上はヒヨイと岩の上

に乗り下はガラ／＼と谷へ

落ちた秋山はどうして恁

う美事に斬れたかと身な

がら呆れて熟と見てゐた

スルト斬られた平右衛門が

平『先生済みませんが壺皿

と簪を貸しておくんなさい』

要『それを持つて何にする

…』

平『へエ谷へ下りて胴を取

る』

粹な奴もあつたもの、こ

れは昔の滑稽ですが序に申

上げて置きますさて林藏

に岸丈右衛門、藤藏に周作

の四人が秋山先生に怪俄を

させまいと無二無三に斬り

け暴れ廻つたこの勢ひに

押して來た人々は斬りまく

られでドウツーと崩れ亘つ

て麓を指て逃げる秋山要

と登つて來る、近寄るを引

と松火を投げ出し我先に

は谷でございます、秋山要

と登つてしまへ

在庫品豊富と!!!

弊店のモットー!!!

品質の正確と!!!

値段の破格と!!!

懸命の奉仕は!!!

受けた秋山が斬つてする

要『林藏歩も退くな、も

う懲うなつた上は死人の山

を築くか、但し此處で佛に

なるか二ツに一ツ確り働け

廻つた、忽ち十二三人バタ

さア來イ』

と待ち受けた所へ松火を

點じてワツとときを揚なが

ら押して來た廣澤の兵右

衛門、鉢澤の藤兵衛、二神興

村の三右衛門始め凡そ五六

十人二日許り續いて空を踏

んで其揚句に不意に立たれ

たので散つてゐた子分が十

分集まらない然し逃がし

てはならんと追駆けてドン

／＼登つて來たが此處は道

要『林藏追手がかゝつた

場が悪い今少し登れ』

時

○『相手は五人だ恐れる所

は無え俺の働きを見ろ』

と云ひながら手槍を持つ

て崩れ立つ中より躍り出し

たは林藏の爲に横死した猪

之松の子分白川無宿の奴の

平右衛門狭い道を駆け登り

ヤツと云ふと秋山を望んで

突いて來た要介ヒラリと

身を交し平右衛門がトント

ンと前へ出た所をサツと横

に拂つた胸を斬られて一

人の平右衛門が二人となり

胸から上はヒヨイと岩の上

に乗り下はガラ／＼と谷へ

落ちた秋山はどうして恁

う美事に斬れたかと身な

がら呆れて熟と見てゐた

スルト斬られた平右衛門が

平『先生済みませんが壺皿

と簪を貸しておくんなさい』

要『それを持つて何にする

…』

平『へエ谷へ下りて胴を取

る』

粹な奴もあつたもの、こ

れは昔の滑稽ですが序に申

上げて置きますさて林藏

に岸丈右衛門、藤藏に周作

の四人が秋山先生に怪俄を

させまいと無二無三に斬り

け暴れ廻つたこの勢ひに

押して來た人々は斬りまく

られでドウツーと崩れ亘つ

て麓を指て逃げる秋山要

と登つてしまへ

在庫品豊富と!!!

弊店のモットー!!!

品質の正確と!!!

値段の破格と!!!

懸命の奉仕は!!!

受けた秋山が斬つてする

要『林藏歩も退くな、も

う懲うなつた上は死人の山

を築くか、但し此處で佛に

なるか二ツに一ツ確り働け

廻つた、忽ち十二三人バタ

さア來イ』

と待ち受けた所へ松火を

點じてワツとときを揚なが

ら押して來た廣澤の兵右

衛門、鉢澤の藤兵衛、二神興

村の三右衛門始め凡そ五六

十人二日許り續いて空を踏

んで其揚句に不意に立たれ

たので散つてゐた子分が十

分集まらない然し逃がし

てはならんと追駆けてドン

／＼登つて來たが此處は道

要『林藏追手がかゝつた

場が悪い今少し登れ』

時